



白樺通信

小樽市の木 白樺の花言葉：光と豊富

2019年12月10日 発行

小樽公開講座2019が終了しました

2019年11月13日、後志認知症疾患医療連携協議会 小樽公開講座2019がマリンホールで開催され、おかげさまで150名の方が来場してくださいました。

今年は群馬県にある医療法人大誠会 理事長 田中志子（たなかゆきこ）先生をお招きし「身体拘束ゼロを可能にする認知症ケア BPSDを軽減させる大誠会スタイル」についてご講演いただきました。

田中先生の情緒豊かな話しぶりやビデオも交えた講演は大変わかりやすく、ケア五原則（「快刺激」「褒める」「コミュニケーション」「役割」「エラーレス」と「されていやなことはしない」「相手の気持ちになる」といったケアを基本とし、入院されて不安の高まっている時期に早く安心できるように頻繁に関わっていくなど患者さんの時期に合わせた関わりをすることで、入院後1週間（！）でBPSD（認知症の方の行動・心理症状）が軽減されていることが具体的に示されていました。

その後は 北海道作業療法士会後志支部 岩永輝明（いわたがてるあき）副支部長、小樽市介護支援専門員連絡協議会 川尻輝記（かわじりてるき）会長、当院看護部

萩原正子（はぎはらしょうこ）看護部長が登壇し、会場を代表して質問や感想などを田中先生に伝えていただきました。

質疑のなかで田中先生は、転倒・転落はなくならないが家族に病院の方針を理解してもらった上で入院してもらっていること、転倒・転落が起こった際には、職員全体の問題として全員で対応を考えていくことが職員が疲弊しないために必要であると話されました。また、拘束をなくすために活動を継続してこられたのは、患者さんの感謝の言葉と、職員全員が「笑顔でGO!」の合い言葉を大切にしてきたからとのことでした。

足を運んでいただいた皆様、ありがとうございました。



神恵内村で介護予防教室が開催されました



2019年10月11日に神恵内村で、「認知症についてもっと知ろう」と題した介護予防教室が開催され、高丸勇司センター長が講演を行いました。

講演は、①認知症の予防とは、②病院を受診するタイミングと意義、③今からできること、というテーマについて行われました。

受診のタイミングについては、年単位の変化の場合は受診を急がなくとも良いが、数日から数ヶ月の間におこった急な変化であれば身体的な病気が隠れていることがあるため、なるべく早い受診が望ましいことと、早期に診断がついた場合には日常生活でのサポートやサービスを考える糸口にもなると説明がありました。

また、「今からできること」として、高齢になってどのような生活をしたのか具体的にイメージして準備しておくこと、規則正しい食生活や運動、趣味、知的活動などを無理なく楽しく続けていくことが大切であると説明していました。

そのほか、講演前には認知症自己診断テストも行われており、参加された36名の方々はさまざまなクイズやチェックリストにも挑戦されていました。



お知らせ

当センターではセンター長はじめ、センタースタッフが講演依頼を随時受け付けております。認知症の病気についてや接し方、利用できるサービスについてなど、5、6名程度の会合からお引き受けしますので下記までご連絡ください。

編集後記

いよいよ冬本番で寒さが厳しくなってきました。気温の変化が大きいため、風邪など体調にお気をつけください。来年もよろしくお祈りします。

石田・山崎

小樽市立病院 認知症疾患医療センター 石田・井下田（いげた）
〒047-8550北海道小樽市若松1丁目1番1号 小樽市立病院内
TEL 0134-25-1211 FAX 0134-24-6187（直通）
相談時間：月曜日から金曜日 9：00－16：00（祝祭日を除く）